

## 第2章 新潟市の農業・農村の将来像

本市は、人口が一定程度集積している都市部と、豊かな自然や日本一の生産量を誇る米など多様な農産物を生み出す田園地域とが近接しており、互いの良さを活かし合いながら共存する、都市と田園の調和した暮らしやすいまちです。

多くの市民は地場農産物や食文化に誇りや愛着を抱いており、豊富な「食と農」の地域資源は本市の魅力であるとともに強みとなっています。

第2期新潟市農業構想(※)では、『食と花の都～笑顔あふれ明日を拓く大農業都市～』を将来像に掲げ、生産・販売、担い手、農業生産基盤、環境、消費者との交流に関する5つの方針のもと、様々な施策を推進してきました。



農業・農村の将来像

# 食と花の都

～都市と田園の調和を活かした持続可能な農業の実現～



しかしながら、国内では人口減少や食生活の変化などによる米の消費低迷や農業者の高齢化・担い手不足などが進むとともに、新型コロナウイルス感染症をはじめ、気候変動、国際情勢の不安定化などグローバルな課題にも直面しており、農業を取り巻く環境は厳しさを増しています。

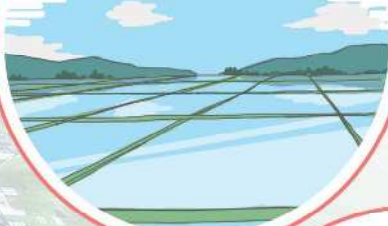
そこで、第3期となる本構想では『食と花の都～都市と田園の調和を活かした持続可能な農業の実現～』を将来像に掲げました。

本市が目指す田園型政令市のイメージである「食と花の都」を継承しつつ、本市の強みである豊富な「食と農」の地域資源を最大限に活かし、農業者、農業関連団体、市民、食品関連産業に関わる事業者など様々な関係者による連携のもと、自然環境とも調和した未来につながる持続可能な農業を実現する都市を目指します。そして市民の誰もが本市農業の恵みを楽しみ続けられ、さらに次世代へしっかりと引き継げるよう農業・農村の振興に取り組みます。

※第2期新潟市農業構想：計画期間平成27（2015）年度～令和4（2022）年度

### 売れる米づくりと園芸産地づくりの推進

「儲かる農業」に向けた  
農業生産基盤の整備・保全



生産性向上と持続性の  
両立に向けた  
スマート農業技術の導入促進



意欲ある担い手等の  
確保・育成



新たな需要に応える  
農産物の生産体制の強化



所得拡大に向けた  
販売力の強化



### 農業を活かしたまちづくり

地域資源を活用し、  
コミュニティの活力を創出



食と農への理解と  
シビックプライドの醸成



新潟の農産物と食文化を  
全国に発信

